Hitachi DATA01 Software Write Tool

Ver01.00.00

ＫＤＤＩ株式会社

〈改版履歴〉

Ver	作成日	主な改版内容
01.00.00	2010/12/21	初版作成

◆初めに

Hitachi DATA01 Software Write Tool(以降、本ツールと呼ぶ) は、DATA01 通信端末内(以降、通信端末と呼ぶ)のソフトウェアを更新するためのツールです。本ツール使用時は、下記の『◆事前確認』、および『◆注意事項』を必ずお読みください。また、『◆使い方』を必ず守ってください。

◆動作環境

本ツールは、以下の OS に対応しています。

・Windows XP (SP2 以降)

・Windows Vista(SP1 以降)

・Windows 7

※英語版を利用し日本語表示に対応していない場合は、本ツールの画面が正しく表示されません。日本語を表示させる場合は、後述の『◆日本語の表示について』を参照ください。

◆インストール/アンインストール

本ツールご使用にあたって、パソコンへのインストール/アンインストールは必要ありません。本ツールの使用方法の詳細は、『◆使い方』をご確認ください。

◆ユーザーアカウント権限

本ツールは、管理者、制限ユーザー(※)、ゲストユーザーでご使用になれます。

※Windows XP の場合です。Vista および 7 の場合は標準ユーザーになります。

◆事前確認

本ツールを使用する前に、以下の事項についてご確認ください。

- 本ツールを使用するパソコンに DATA01～04 共通ユーティリティーがインストールされていることをご確認ください。
- DATA01～04 共通ユーティリティーが起動している場合は、終了させてください。
- 本ツールが起動している場合は、一度終了させてください(以下の『◆使い方』に従い、通信端末がパソコンへ接続されている状態で本ツールを起動してください)。
- 他のアプリケーションが起動している場合はすべて終了させてください。
- 本ツール起動中に他のアプリケーションが起動しないようにしてください(ウイルス対策ソフトなど、自動的に起動する本ツール起動中に他のアプリケーションが起動しないようにしてください)。
- パソコンが電源に接続されている状態で使用してください。
- 本ツールの対象機種とお使いの通信端末の機種が一致していることをご確認ください。本ツールは DATA01 通信端末用のツールです。

◆使い方

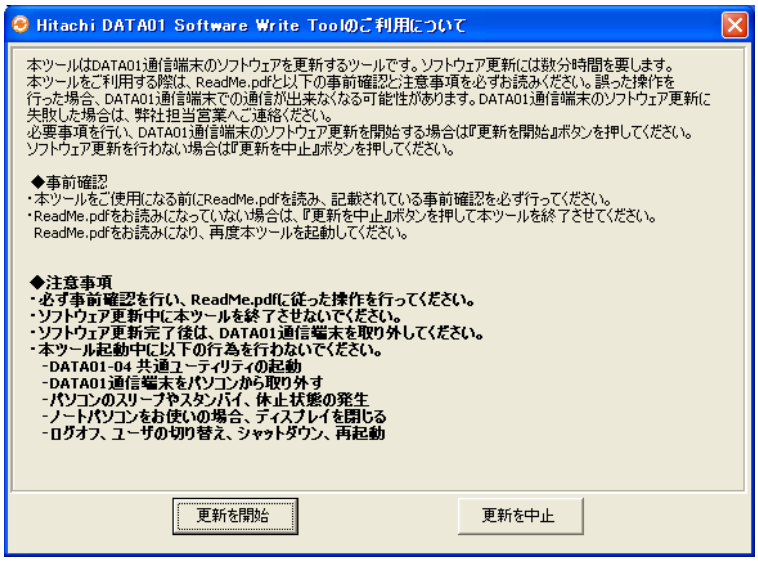
(1) 通信端末をパソコンへ接続してください。

(2) 本ツールを起動してください。

(3) 本ツールを使うための注意事項などの『Hitachi DATA01 Software Write Tool のご利用について』画面が表示されます。

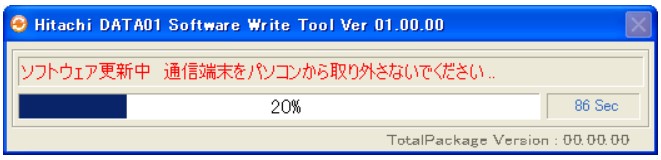
・内容をご確認のうえ、ソフトウェア更新を開始する場合『更新を開始』を押してください ⇒ (4)へ

・ソフトウェア更新を開始しない場合は『更新を中止』を押してください ⇒本ツールを終了します

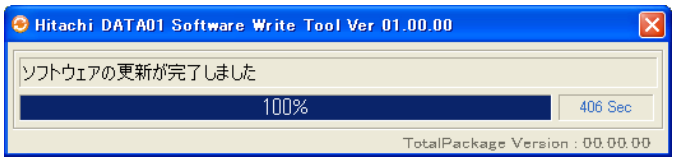


(4) 通信端末が検出され『通信端末を検出しました』と表示されます。

(5) 自動的にソフトウェア更新が始まり、『ソフトウェア更新中　通信端末をパソコンから取り外さないでください』と表示されます。



(6) ソフトウェア更新が完了後、『ソフトウェアの更新が完了しました』と表示されます。



(7) ソフトウェア更新が完了後、本ツール画面右上の『×』ボタンを押して終了させ、本ツールを削除してください(本ツールが入っているフォルダを削除してください)。

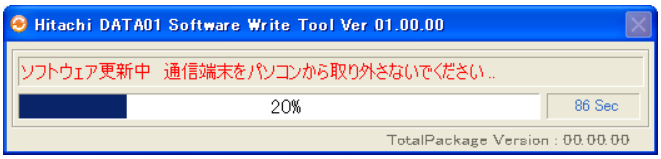
(8) 最後に通信端末をパソコンから取り外してください。

※最新の状態に更新した通信端末から DATA01～04 共通ユーティリティーを再度インストールし直してください。
インストール手順は端末の取扱説明書等をご覧ください。

◆注意事項

以下の注意事項は必ず守ってください。ソフトウェアの更新が失敗した場合、通信端末による通信ができなくなる可能性があります。

- 必ず『◆事前確認』の内容をご確認のうえ、『◆使い方』に従った操作を行ってください。
- ソフトウェア更新中(『ソフトウェア更新中　通信端末をパソコンから取り外さないでください』表示中)に本ツールを終了させないでください。



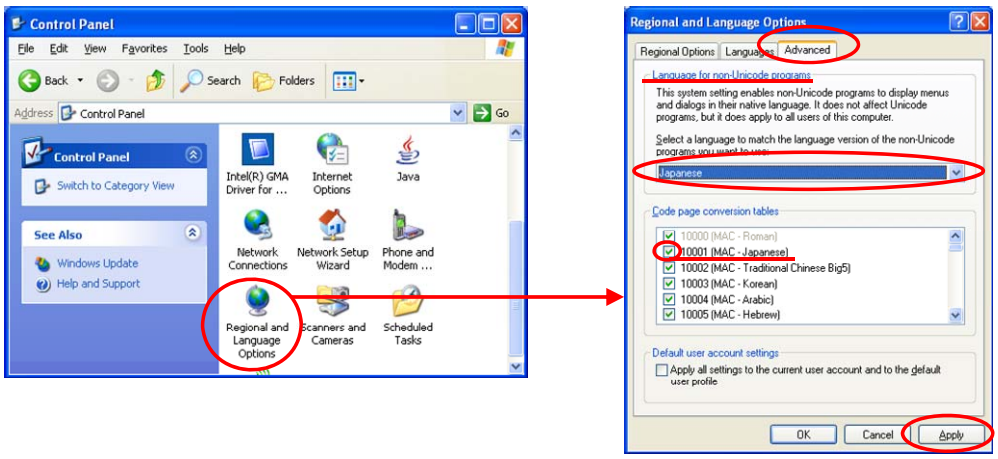
- ソフトウェア更新完了後は、通信端末を取り外してください。
- 本ツール起動中に以下の行為を行わないでください。
  - DATA01～04 共通ユーティリティーの起動
  - 通信端末をパソコンから取り外す
  - パソコンのスリープやスタンバイ、休止状態の発生
  - ログオフ、ユーザーの切り替え、シャットダウン、再起動

◆日本語の表示について

日本語に対応していない OS で正しく日本語を表示させる場合は、『地域と言語のオプション(Regional and Language Options)』から日本語の設定を行ってください。本設定を行うためにはパソコンに日本語フォントがインストールされている必要があります。以下の手順において、『Unicode 対応でないプログラムの言語(Language for non-Unicode program)』に『日本語(Japanese)』が表示されない場合は、パソコン付属のマニュアルなどをご確認ください。

- お使いの OS が Windows XP の場合

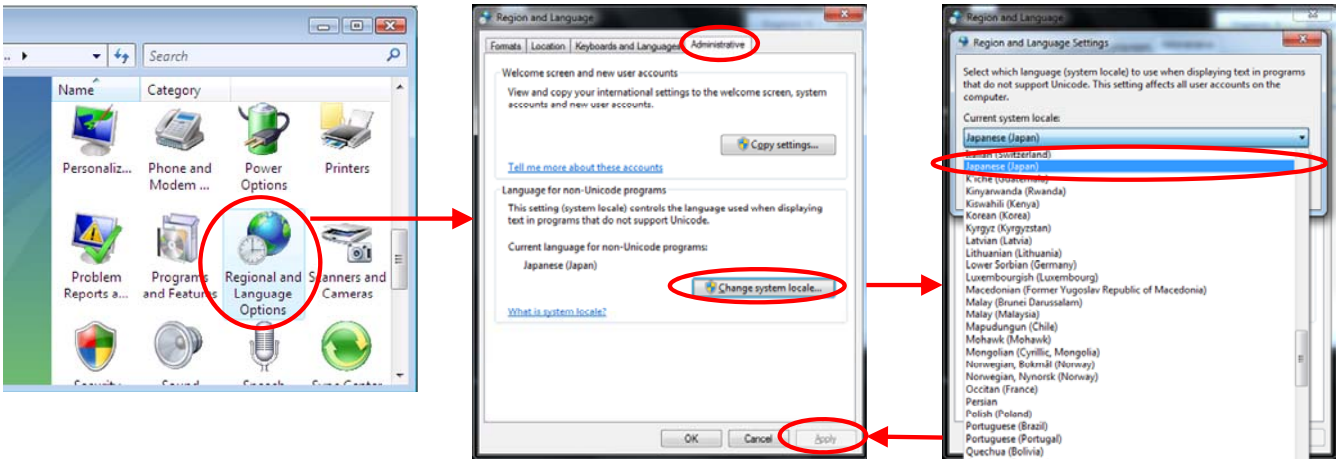
『コントロールパネル(Control panel)』-『地域と言語のオプション(Regional and Language Options)』を選択し、表示された画面の『詳細設定(Advanced)』タブで『Unicode 対応でないプログラムの言語(Language for non-Unicode program)』に『日本語(Japanese)』を選択してください。『コードページ変換テーブル(Code page conversion tables)』の『10001 (MAC-Japanese)』にチェックが入っていない場合は、チェックを入れてください。最後に、『適用(Apply)』を押して、表示された指示に従い、パソコンを再起動してください。本ツールに通信端末のソフトウェア更新が完了したら、同様の手順で変更した設定を元に戻してください。



- お使いの OS が Windows Vista または 7 の場合

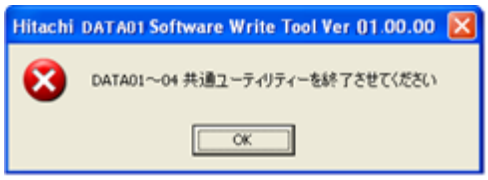
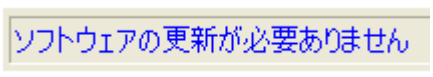
『コントロールパネル(Control panel)』-『地域と言語のオプション(Regional and Language Options)』を選択し、表示された画面の『管理(Administrative)』で『Unicode 対応でないプログラムの言語(Language for non-Unicode program)』の『システムロケーションの変更(Change system location)』から『日本語(日本)(Japanese(Japan))』を選択してください。最後に、『適用(Apply)』を押して、表示された指示に従い、パソコンを再起動してください。本ツールに通信端末のソフトウェア更新が完了したら、同様の手順で変更した設定を元の状態に戻してください。

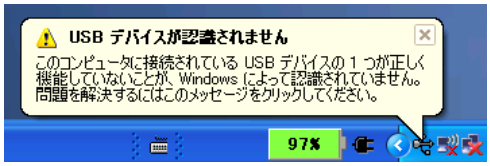
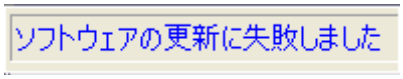
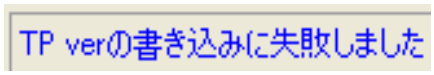
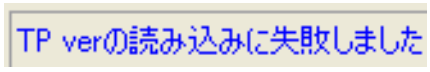
なお、『システムロケーションの変更(Change system location)』の設定変更を行う場合は、管理者権限が必要になります。



◆その他

本ツールでのソフトウェアの更新ができない、ソフトウェアの更新に失敗した場合などは、以下をご確認ください。

症状	対策
『DATA01～04 共通ユーティリティーを終了させてください』と表示され本ツールが起動しない 	DATA01～04 共通ユーティリティーを終了させてから本ツールを起動させてください。 DATA01～04 共通ユーティリティーを終了させても同様の表示がされる場合は、プロセス名が『utility.exe』のプロセスを終了させ、本ツールを起動してください。起動しているプロセスのプロセス名は、タスクマネージャを起動し『プロセス』タブの『イメージ』欄から確認できます。プロセス名が『utility.exe』のプロセスがある場合は、『イメージ名』欄に表示されている該当プロセスを右クリックし、表示されたメニューから『プロセスの終了』を選択して終了させてください。『utility.exe』の大文字と小文字は区別されず、utility.exe、Utility.exe、UTILITY.EXE などが該当します。 なお、現在ログオンしているアカウント以外のアカウントで DATA01～04 共通ユーティリティーや、プロセス名が『utility.exe』のプロセスが起動している場合にも同様の表示がされます。お使いのパソコンに設定されているすべてのアカウントについて確認してください。
『ハードディスクの空き領域が不足しています』と表示され本ツールが起動しない 	ハードディスク C ドライブの空き領域を 50MB 以上に増やしてください。 ハードディスク C ドライブの空き領域を 50MB 以上にしても同様の表示がされる場合は、『環境変数』画面の『XXXXX のユーザー環境変数(XXXXX は現在ログインしているアカウント名)』枠内の『変数：TEMP』の『値』に示されるハードディスク ドライブの空き領域を 50MB 以上に増やしてください。『環境変数』画面は、マイコンピュータ(Windows Vista および 7 をお使いの場合はコンピュータ)を右クリックし、表示されたメニューから『プロパティ』を選択(Windows Vista および 7 をお使いの場合は、さらに『システムの詳細設定』を選択してください)し、表示された『システムのプロパティ』画面の『詳細設定』タブから『環境変数』を選択してください。
本ツール起動後に『ソフトウェアの更新が必要ありません』と表示される 	ソフトウェアの更新は不要です。本ツールを終了させてください。 また、本ツールとお使いの通信端末の機種が一致していない場合にも、本ツールによるソフトウェア更新が不要と判断され、同様の表示がされます。本ツールの対象機種と、お使いの通信端末の機種をご確認ください。
『通信端末が認識できません』と表示される 	本ツールが通信端末を認識できておりません。本ツールを終了させ、通信端末をパソコンから取り外し、再度『◆使い方』を実施してください。本手順を実施しても、症状が変わらない場合は、通信端末をパソコンから取り外し、パソコンを再起動させ、再度『◆使い方』を実施してください。

『USB デバイスが認識されません』と表示される  	本ツールは、ソフトウェア更新中に、自動的に通信端末をリセットします。通信端末のリセット時にそのような表示がされる場合がありますが、問題はありません。
本ツールを終了できない	ソフトウェア更新中は本ツールを終了できなくなっております。ソフトウェア更新中に通信端末がパソコンから外れてしまい本ツールが終了できなくなった場合は、タスクマネージャから強制終了してください。
ソフトウェア更新中に通信端末をパソコンから取り外してしまった ソフトウェア更新中に本ツールを終了させてしまった	誤った操作を行った場合、ソフトウェアの更新に失敗し、通信端末での通信ができなくなる可能性があります。ソフトウェアの更新に失敗した場合は、通信端末をパソコンから取り外し、パソコンを再起動させ、再度『◆使い方』を実施してください。本手順を実施しても、ソフトウェアの更新が行われない、ソフトウェアの更新が完了しない場合は、弊社担当営業へご連絡ください。
『ソフトウェアの更新に失敗しました』と表示される  『TP ver の書き込みに失敗しました』と表示される  『TP ver の読み込みに失敗しました』と表示される  	通信端末故障の可能性があります。その場合は、弊社担当営業へご連絡ください。

他社の商標について：

Windows XP、Windows Vista、Windows 7 は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。